教科内容

2年生

科 目 名	歯科保健統計				授業担当者	比嘉　努	
開講時期	2年　前期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

歯科衛生士に必要な歯科保健統計の種類、方法を学び、統計的な見方、使う技術を身につける。

≪到達目標≫

医療に関連した一般的な統計の種類、内容について分野ごとに理解できる。
１．データの形態や分布などの特徴を説明でき、EBMを理解できる
２．有病および罹患を説明し、有病率、罹患率、発病率、また敏感度および特異度を計算できる
３．指標と指数を理解できる
４．保健調査の基本、母集団と標本、標本抽出法が理解できる
５．データ、数値のもつ特徴を理解できる
６．代表値や散布度、分布度に応じた検定を選定できる
７．検定の流れ、ｔ検定、ｘ２検定を説明できる
８．情報の特性や情報モラルを理解できる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験 実習 実技
1	１．　保健情報と保健統計　（１）保健情報、（２）保健統計	○		
2	２．　保健情報の種類	○		
3	３．　国家統計調査	○		
4	４．　保健情報と疫学	○		
5	５．　観察研究、介入研究、クリーニング（疾病と検査との関係）	○		
6	６．　歯科疾患の指数	○		
7	７．　保健情報の分析手順	○		
8	８．　母集団と標本抽出、復元抽出と非復元抽出	○		
9	９．　保健統計の方法、データの特性、記述統計、推定と信頼区間、検定	○		
10	１０．保健情報の多変量解析	○		
11	１１．保健情報の分析手順	○		
12	１２．図表の作り方	○		
13	１３．情報の保護と倫理	○		
14	１４．個人情報の保護、情報モラル	○		
15	１５．まとめ	○		

≪評価方法≫

試験、出席状況など総合的に評価

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ「保健情報統計学」（医歯薬出版）
最新歯科衛生士教本「保健生態学」　（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科臨床歴25年、大学病院、総合病院での臨床の実務経験をもとに実務経験を活かし
歯科保健統計学について講義を予定している。

科 目 名	保存修復学				授業担当者	中地 昭雄	
開講時期	2年　前期				単位・時間数	1単位 20時間（内10時間担当）	
授業方法	講義	5	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

保存修復学における基礎知識、技術の理解と習得に努める。

≪到達目標≫

1.保存修復学の意義、目的を理解する。

2. 保存修復学の基礎知識の習得、用いる材料器具等の理解に努める。

3. 保存修復における歯科衛生士の役割を理解する。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	保存修復学の概要と目的を理解する。	○		
2	保存修復学において必要な診査、及び問診等の理解。	○		
3	保存修復学で用いる器具、及びその使用法。	○		
4	間接法修復のインレー・アンレー修復の意義・概要、具体的な内容の理解。	○		
5	保存修復における歯科衛生士の役割の理解。	○		

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う。

出欠状況、授業態度など総括的に加味する。

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

医療法人徳真会松村歯科にて3年、医療法人健生会会上原歯科クリニックにて5年間、豊崎デンタルクリニックを開業し16年間、保存修復、歯内療法、補綴治療を主に担当。

上記の実務経験をもとに保存修復について講義を行います。

科 目 名	保存修復学				授業担当者	上江洲　出	
開講時期	2年　前期				単位・時間数	1単位 20時間(内10時間担当)	
授業方法	講義	10	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

歯科診療で最も頻度の高い保存診療の内容について理解する

≪到達目標≫

1. コンポジットレジン修復について、その組成、種類、特徴、適応症、その手順を説明できる。
2. セメント修復について、その組成、種類、特徴、適応症、その手順を説明できる。
3. ベニア修復やその他セラミックインレー、コンポジットインレー修復法について説明できる。
4. 保存修復における歯科衛生士の役割を理解し、手順と診療補助について説明できる。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	コンポジットレジン修復	○		
2	セメント修復	○		
3	ベニア修復　セラミック、CRインレー修復	○		
4	保存修復の概要	○		
5	試験対策	○		

≪評価方法≫

定期試験で、総括的評価を行う

出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版）

保存修復学21（永末書店）

その他

≪実務経験≫

上原歯科クリニックに勤務。5Djapanファンダメンタル エンド修復コース、福西一浩先生・宮崎真至先生の

CR修復セミナー受講。これらの経験をもとに保存修復学について講義を行います。

科 目 名	歯内療法学				授業担当者	岡村　健司	
開講時期	2年　前期				単位・時間数	1単位20時間	
授業方法	講義	10	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教 員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

歯髄および根尖性歯周疾患の原因・分類を把握し、その予防・治療法を理解するとともに
歯の保存治療の意義を学ぶ

≪到達目標≫

1．歯髄炎や根尖性歯周炎に伴って発現する疼痛などの臨床症状について
　理解し、患者さんに十分な説明ができるようにする。

2．処置方針を理解したうえで、術前の器械・薬剤等の準備や、術中の術者の治療操作が
　円滑にできるよう補助できるようになる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	歯内療法の概要	○				
2	歯髄の保存療法	○				
3	歯髄の除去療法（抜髄・感染根管治療）	○				
4	根管治療・根管充填	○				
5	外科的歯内療法	○				
6	歯の外傷	○				
7	歯内療法における安全対策	○				
8	歯内療法における歯科衛生士の役割	○				
9	実習	○			△	
10	歯内療法まとめ	○				

≪評価方法≫

定期試験での総括的な評価を行う
出欠・授業態度などを総括的評価に加味する

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

大阪大学大学院歯科保存学教室卒業（歯学博士）
おかむら歯科医院にて歯科医師として勤務

科 目 名	歯周療法学				授業担当者	金子智之	
開講時期	2年　前期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

・歯周病の予防と治療について理論的に理解し、 患者に対して適正な歯科保健指導が行えるように、口腔清掃指導の知識と技術を修得する

・歯周治療における知識や歯科衛生士の担う役割について修得する

≪到達目標≫

・正常な歯周組織について、説明できる　　・歯周疾患の成り立ちを理解し、分類ができる

・歯周疾患の治療法、予防法を理解し、その基本的な考え方が説明できる

・歯周疾患の診査、診断方法、歯周基本治療が説明できる

・歯周治療における歯科衛生士の役割について具体的に説明できる

・歯周治療における口腔衛生指導は歯科衛生士が主体となって行い、モチベーションの重要性を認識する

・歯周治療を進める中で、患者のその時の症状や状態に応じた指導を行うことができる

・歯周治療の手技について理解し、患者へ治療方針の説明ができると同時に適確なサポートができる

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	歯周治療とは、正常な歯周組織の構造	○		
2	歯周組織の機能	○		
3	歯周疾患の分類：歯肉炎と歯周炎の違い	○		
4	歯周疾患の原因、歯周医学	○		
5	歯周治療の進め方	○		
6	歯周疾患の診査	○		
7	歯周基本治療、まとめ	○		
8	歯周治療の流れと口腔衛生指導におけるモチベーションの重要性	○		
9	歯周外科の目的、用いる器具と手技について	○		
10	各歯周外科手術の目的、術式	○		
11	〃	○		
12	〃	○		
13	咬合性外傷の診断、処置、固定法について	○		
14	歯周治療におけるメインテナンスと衛生士の役割	○		
15	まとめ	○		

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う。出欠状況、授業態度などを総合評価に加味する。

レポート提出もありうる

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ　「歯周病学」　(医歯薬出版)

最新歯科衛生士教本　「歯周疾患:歯周治療」「歯周疾患」(医歯薬出版)

≪実務経験≫

歯科医師として大阪大学歯学部付属病院保存科に勤務。主に歯周病及びう蝕治療を担当した。

歯科医師として米国ペンシルバニア大学歯周病学講座で勤務。主に歯周病の研究と学生教育を担当した。

上記の実務経験をもとに、歯周病学について講義を行います。

科 目 名	歯科補綴学				授業担当者	玉城　均	
開講時期	2年　前期				単位・時間数	2単位 30時間(内20時間担当)	
授業方法	講義	10	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

口腔内の失われた形態や諸機能を回復させるための歯科補綴治療の広範な知識と技能を修得する。

また、回復された口腔の形態や機能保持のための知識と技能を含めて習得する。

≪到達目標≫

・補綴治療の目的について述べることができる

・補綴治療に必要な解剖学的な知識を述べることができる

・補綴治療に必要な基礎的な用語を詳説できる

・人工材料や歯科技工など歯科治療の特殊性を概説できる

・義歯の種類や分類について説明できる

・義歯の構成について説明できる

・義歯の制作方法を概説し、取り扱いなど患者さんに説明できる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	補綴治療の目的、特殊性について	○				
2	補綴装置の種類と適応について	○				
3	補綴治療の基礎知識～歯列の形態と位置的関係について	○				
4	補綴治療の基礎知識～顎口腔系の機能、咬合	○				
5	補綴治療の基礎知識～下顎位、下顎運動	○				
6	部分床義歯の分類・構成	○				
7	部分床義歯の制作の手順・方法	○				
8	部分床義歯の技工・患者指導	○				
9	全部床義歯の分類・構成	○				
10	全部床義歯の制作の手順・方法・技工・義歯の修理	○				

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う

レポート提出、出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ 「歯科補綴学」(医歯薬出版)

最新歯科衛生士教本 「咀嚼障害・咬合異常1　歯科補綴　第2版」(医歯薬出版)

最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」(医歯薬出版)

最新歯科衛生士教本 「歯科材料」(医歯薬出版)

≪実務経験≫

卒業後に北医療大第一補綴学講座勤務。補綴診療、研究、学生教育に従事。

その後、ながた歯科医院を開業。39年間の実務経験に基づいて歯科補綴学の講義を行います。

科 目 名	歯科補綴学				授業担当者	長堂 忍	
開講時期	2年 前期				単位・時間数	2単位30時間（内10時間担当）	
授業方法	講義	5	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

補綴学における専門用語、補綴物の種類、利点、欠点、治療の一連の流れを習得、理解する

≪到達目標≫

１．補綴学の意義

２．補綴物の種類、利点、欠点

３、専門用語の理解

４．治療における一点の流れを習得する。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	自己紹介、教科書の読み合わせ	○		
2	補綴物の定義と種類、利点、欠点	○		
3	クラウンについて	○		
4	ブリッジについて	○		
5	インプラント治療について	○		

≪評価方法≫

期末試験での点数にて評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ　「歯科補綴学」（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常１　歯科補綴第２版」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科医師として長堂歯科医院にて診療に従事。33年の実務経験をもとにクラウン・ブリッジについて講義を行います。

科 目 名	歯科矯正学				授業担当者	渡口 進一 ・ 塚谷 沙織	
開講時期	2年 前期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教 員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

わが国における歯科の専門分野としての歯科矯正の目的及び、その意義について理解する。

又、関連する内容を修得する。

≪到達目標≫

1. 歯科矯正の概要を説明できる
2. 歯科矯正の知識や技術を身につける
3. 歯科矯正を臨床面でも応用できる
4. 歯科矯正の知識を得ることによって社会に普及できる
5. 今後の歯科矯正の発展及び予防に貢献できる

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	矯正歯科治療の概要	○		
2	成長発育	○		
3	正常の咬合と不正咬合	○		
4	矯正歯科診断	○		
5	矯正歯科治療と力－矯正力・顎整形力・保定－	○		
6	矯正装置	○		
7	上下顎の前後的関係の不調和 上下顎の垂直的関係の不調和	○		
8	成人矯正 口腔顎顔面の形成異常と変形	○		
9	歯の埋伏と歯数の異常	○		
10	矯正歯科治療時のトラブルへの対応 健康保険が適用される矯正歯科治療	○		
11	矯正歯科診断にかかわる業務	○		
12	矯正歯科診療時の業務	○		
13	矯正歯科患者と口腔保健管理 口腔筋機能療法 器材、資料、文書の管理	○		
14	まとめ	○		
15	小テスト	○		

≪評価方法≫

定期試験で、総括的評価を行う

出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ 「歯科矯正学」（医歯薬出版）

予防歯科学等

≪実務経験≫

歯科医師として大学病院矯正歯科に勤務後、矯正歯科医院に勤務。

主に矯正の治療を担当。矯正歯科での実務経験をもとに歯科矯正学について講義・実習を行います。

科 目 名	口腔外科・歯科麻酔学				授業担当者	新垣　敬一	
開講時期	2年　前期				単位・時間数	2単位　30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

口腔領域に原発する疾患、口腔から全身に影響を与える疾患、全身疾患の部分症として口腔に現れる疾患の原因、症状、治療法および口腔外科治療に関連する臨床検査、麻酔法について理解できる。疾患の処置・手術にあたっては、疾患の発症原因と予後を理解した上での介助を行うことができる

≪到達目標≫

1. 各種口腔外科疾患の病態や治療法について理解できる
2. 口腔外科疾患の治療（特に抜歯や口腔外科小手術等）の際、歯科衛生士としての診療補助
3. 口腔外科疾患の治療の際の、注意事項（特に抜歯や口腔外科小手術等）について十分理解し、患者に説明できる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	口腔外科と歯科衛生士、口腔疾患と内科疾患との関係	○		
2	口唇裂・口蓋裂　顎の先天異常と変形、口腔領域の損傷	○		
3	小テスト、口腔粘膜疾患	○		
4	歯の異常・口腔軟組織の先天異常　顎関節疾患	○		
5	口腔領域の炎症（感染症）、口腔領域の嚢胞・腫瘍	○		
6	唾液腺疾患・口腔領域の神経性疾患・血液疾患と出血性素因	○		
7	診察と診断、滅菌と消毒、抜歯術・口腔外科小手術	○		
8	歯科治療と歯科麻酔	○		
9	救急蘇生法、口腔外科・歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわり	○		
10	口腔外科・歯科麻酔総括	○		
11	局所麻酔と精神鎮静法　全身麻酔と救急蘇生法	○		
12	口腔外科・歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわり	○		
13	口腔外科　歯科麻酔処置における業務	○		
14	インプラント手術の業務　術前術後のケアと器材の管理	○		
15	歯科麻酔の総括	○		

≪評価方法≫

成績評価は学習態度および小テスト、定期試験の総合判定により行う

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本　「口腔外科・歯科麻酔」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科・口腔外科医師歴30年以上の経験、口腔外科専門医/指導医の資格をもとにこれまで本学校の講義を行ってきた。引き続き、勤務する沖縄県立中部病院の臨床経験と学会等の最新の知識を踏まえた講義行う予定。

科 目 名	小児歯科学				授業担当者	山里　理恵子	
開講時期	2年 前期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

小児の身体的・精神心理的特徴と小児の歯科治療の留意点を理解する
健全な永久歯列を完成させるうえで、障害となる疾患・形成異常・習癖の治療と予防を学ぶ。

≪到達目標≫

①小児歯科の目的を理解し、小児歯科医療の特徴を学ぶ
②小児の心身の発達と生理的特徴を説明できる
③乳歯と幼若永久歯の特徴をつかみ、予防処置と保健指導の重要性を理解する
④小児の全身疾患、歯科疾患について理解し説明できる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	小児歯科学概論、心身の発達	○				
2	小児の生理的特長	○				
3	顔面頭蓋の発育	○				
4	歯の発育とその異常	○				
5	歯列､咬合の発育と異常	○				
6	小児の歯科疾患	○				
7	小児虐待、小児期の特徴と歯科的問題点	○				
8	小児歯科における患者との対応法	○				
9	小児歯科における診療体系①	○				
10	小児歯科における診療体系②	○				
11	小児歯科における診療体系③	○				
12	小児歯科における診療体系④	○				
13	障害児の歯科治療	○				
14	う蝕予防	○				
15	**小児の口腔保健管理、歯科診察室と器材の管理　まとめ**	○				

≪評価方法≫

定期試験・レポート提出・出欠状況・授業態度などを総括的に評価をする

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ　「小児歯科学」（医歯薬出版）
最新歯科衛生士教本　「小児歯科」　（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科医師として与那原中央病院歯科・口腔外科に勤務。主に入院病棟・訪問診療を担当。
歯科診療の経験をもとに、小児歯科について講義を行います。

科 目 名	障害者歯科			授業担当者	勝連義之・長嶺和希	
開講時期	2年 後期			単位・時間数	1単位 16時間	
授業方法	講義	8	演習	実験・実習・実技		
授業場所	(校内)	校外		教 員	(兼任)	兼任

≪学習目標≫

障害と障害者について社会的な視点から理解をする

障害の特徴を理解したうえで、歯科治療上の問題点や注意点を理解する

患者の人権を尊重したコミュニケーション法を知り、基本的な行動調整法を学習する

障害者の保健指導として、障害の特性と指導法の工夫や効果、指導の限界を学習する

≪到達目標≫

1. 障害と障害者について社会的な視点から理解し、説明ができる
2. 障害者歯科における歯科衛生士の使命を理解できる
3. 歯科保健と医療における障害者歯科の特質、役割を説明できる
4. 小児、成人、高齢の障害者にみられる歯科的特性を列挙できる
5. 歯科保健、治療における行動調整の種類と特徴を列挙できる
6. 障害者の生活面で必要な歯科的支援について説明できる
7. 障害者歯科治療時のリスク管理を修得する
8. 障害別の歯および口腔の形態的、機能的特徴を列挙できる
9. 障害者の対応に必要な歯科衛生士としての態度、姿勢を修得する

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	障害の概念	○				
2	障害の種類と歯科的特徴（知的障害とその原因となる疾患）	○				
3	障害の種類と歯科的特徴（発達障害）	○				
4	障害の種類と歯科的特徴（運動障害、精神障害）	○				
5	障害の種類と歯科的特徴（障害者と薬剤、てんかん）	○				
6	障害者歯科治療のリスク管理	○				
7	障害者歯科における行動調整	○				
8	障害者歯科における歯科衛生士の役割	○				

≪評価方法≫

期末試験で、総括的評価を行う

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ 「高齢者歯科学」医歯薬出版

スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版 （医歯薬出版）

≪実務経験≫

・歯科医師として医療法人悠歯会那覇まかび歯科に勤務。一般歯科・障害者の治療担当
障害者歯科での実務経験をもとに障害者歯科について講義を行います。 （勝連義之）

・沖縄県口腔保健医療センターにて、障害者歯科治療を担当していた経験をもとに
講義を行います。 （長嶺和希）

科 目 名	高齢者歯科学				授業担当者	平塚 正雄、幸地 真人	
開講時期	2年　後期				単位・時間数	1単位　15時間	
授業方法	講義	8	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

高齢化社会における歯科衛生士の役割を知り、口腔だけではなく患者の全身状態および生活機能をみることができ、他職種での連携、チーム医療の重要性を学ぶこと。

≪到達目標≫

全8回の講義で高齢者の歯科医療における特徴およびその対応法を理解している。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容		授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	Ⅰ編	高齢者をとりまく社会と環境（幸地）	○		
2	Ⅱ編	加齢による身体的・精神的変化と病態（幸地）	○		
3	Ⅲ編	高齢者の状態の把握（幸地）	○		
4	Ⅳ編	口腔のケア（幸地）	○		
5	Ⅴ編	摂食嚥下リハビリテーション（平塚）	○		
6	Ⅵ編	高齢者に関わる医療と介護（幸地）	○		
7	Ⅶ編	高齢者歯科における歯科衛生過程（幸地）	○		
8		歯科衛生士国家試験対策（幸地）	○		

≪評価方法≫

全講義終了後の試験により評価する。

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生士教本　高齢者歯科　医歯薬出版株式会社

≪実務経験≫

日本老年歯科医学会指導医、専門医、認定医であり、病院歯科における高齢者歯科医療に15年以上携わっています。（幸地）

福岡歯科大学附属病院（麻酔科、高齢・障害者歯科）やリハビリテーション病院歯科において歯科医師として勤務。これまでの実務意見をもとに、講義を行います。（平塚）

科 目 名	歯科放射線学				授業担当者	神下　太一	
開講時期	2年 後期				単位・時間数	1単位 15時間	
授業方法	講義	4	演習	4	実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

医療用放射線は歯科医療の場で正当に、安全に用いられなければならない事を理解する。
歯科医療の場で歯科衛生士が果たすべき役割を正しく認識し、撮影の補助ができる能力を習得する。

≪到達目標≫

適切な治療を行うために、放射線の必要性と危険性、その利用法を理解し、歯科エックス線検査において安全で適切な準備、撮影後の処理ができる。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	歯科医療と放射線	○		
2	エックス線画像の形成	○		
3	歯科におけるエックス線検査	○		
4	口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割		○	△
5	パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割		○	△
6	写真処理と画像保存の実際		○	△
7	放射線治療と口腔管理		○	△
8	まとめ	○		

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う
出席状況、レポート（３～４回）授業態度などを総括評価に加味する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ「歯科放射線学」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科臨床17年、（琉球大学附属病院歯科口腔外科（3年）、県内歯科診療所（4年）
はごろもファミリー歯科開設（10年）の実務経験を活かして
上記　学習目標、到達目標を指標とした講義、実習を行う

科 目 名	歯科予防処置（齲蝕予防処置）				授業担当者	喜久村 綾子	
開講時期	2年 前期				単位・時間数	2単位70時間（内24時間担当）	
授業方法	講義	1	演習		実験・実習・実技	11	
授業場所	校内		校外		教 員	兼任	専任

≪学習目標≫

歯科医院や集団健診で行われているう蝕予防について基礎知識の理解と実技が行える
ことを目標とする

≪到達目標≫

①う蝕予防処置法における臨床応用の配慮点を理解し作用機序や安全性について説明できる
②う蝕予防処置法に用いる材料の特性を熟知し安全に操作・使用できる
③う蝕予防性試験について説明できる

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	演習	実験 実習 実技
1	フッ化物洗口	△		○
2	フッ化物歯面塗布法（綿球法）	△		○
3	フッ化物歯面塗布法（歯ブラシ法）	△		○
4	フッ化物歯面塗布法（トレー法） イオン導入法	△		○
5	フッ化ジアンミン銀溶液塗布法 フッ化物イオン濃度まとめ	△		○
6	まとめ	○		
7	う蝕活動性試験（RDテスト・CAT21Buf）	△		○
8	〃 （CAT21Test）			
9	小窩裂溝填塞（顎模型）	△		○
10	〃			
11	小窩裂溝填塞（相互実習）	△		○
12	〃			

≪評価方法≫

レポート提出と定期試験で評価を行う
出席状況を加味する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 （医歯薬出版株式会社）
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 （医歯薬出版株式会社）
歯科衛生学シリーズ 保健生態学 （医歯薬出版株式会社）

≪実務経験≫

歯科医師として乳幼児の齲蝕予防に携わり、その実務経験をもとに予防処置について
講義する

科 目 名	歯科予防処置				授業担当者	新垣花絵　志喜屋やよい	
開講時期	2年　前期				単位・時間数	2単位　70時間(内46時間担当)	
授業方法	講義	5	演習		実験・実習・実技	42	
授業場所	(校内)		校外		教　員	兼任	(専任)

≪学習目標≫

歯科衛生士の職務の根幹となる歯科予防処置の基礎的な知識と手技を習得する。

特に、手技においては対象が「生きている人」であることから、より確実なものを身に付ける。

≪到達目標≫

- 手用スケーラーの種類と特徴を説明できる.
- SRP前の観察と留意点について説明する.
- SRPに用いる器具を説明する.
- SRPの基本を説明する.
- マネキンを使ってSRPの基本操作をする.
- シャープニングする各種スケーラーの形態と名称を説明できる.
- 各種スケーラーのシャープニングを実施できる.
- 超音波スケーラーの特徴を説明できる.
- 超音波スケーラーの使用方法を説明できる.
- 歯科衛生介入に関連する検査方法を説明できる.
- 歯周病に関連する検査をあげる.
- 口腔内写真撮影を実施出来る。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験 実習 実技
1	・キュレットスケーラー講義	○		△
2～7	・キュレットスケーラー基礎実習	△		○
8	・シャープニング講義・基礎実習			○
10	・口腔内写真撮影講義	○		△
11～12	・口腔内写真相互実習			○
13	・超音波スケーラー講義・基礎実習	△		○
14～15	・超音波スケーラー相互実習			○
16	・シックルスケーラー基礎実習			○
17	・まとめ	○		

≪評価方法≫

原則として、定期試験より評価する。場合により、授業中に小試験を課することもある。

実技テスト、課題提出、授業態度を加味し、総括評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本　「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本　「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本　「歯周病学　第2版」（医歯薬出版）

歯科衛生士教本　「歯周病治療の基礎と臨床」（永末書店）

加藤久子（著）　「ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙ・ｽｹｰﾘﾝｸﾞ・ﾃｸﾆｯｸ」　（医歯薬出版）

加藤久子（著）　「ﾄｰﾀﾙｽｹｰﾘﾝｸﾞﾃｸﾆｯｸ」　（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科衛生士として障害者歯科センターで勤務。

主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・歯科診療補助業務・受付業務を担当。

これまでの実務経験をもとに歯科予防処置について講義を行います。

科 目 名	歯科予防処置				授業担当者	新垣花絵　志喜屋やよい	
開講時期	2年　後期				単位・時間数	2単位　70時間(内46時間担当)	
授業方法	講義	4	演習		実験・実習・実技	15	
授業場所	(校内)		校外		教　員	兼任	(専任)

≪学習目標≫

歯科衛生士の職務の根幹となる歯科予防処置の基礎的な知識と手技を習得する。

特に、手技においては対象が「生きている人」であることから、より確実なものを身に付ける。

≪到達目標≫

・シックル、キュレット、超音波スケーラーの基本操作を行うことができる
・患者を対象に、基本動作を実施できる
・相互実習、患者実習を通して自身の手技の振り返りができ、臨床実習につなげることができるようにする
・エアフローの基礎を理解し、基本操作を行うことができる
・シックル、キュレット、超音波スケーラーの手技を復習し、確実に身につけることができるようにする

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	・相互実習オリエンテーション	△				
2～7	・相互実習	△			○	
8～12	・患者実習				○	
13	・患者実習まとめ	△				
14	・エアフロー講義・基礎	△			○	
15～16	・エアフロー相互実習				○	
17	・ 実技復習				○	
18	・ SC復習				○	
19	・まとめ	○				

≪評価方法≫

原則として、定期試験より評価する。場合により、授業中に小試験を課することもある。

実技テスト、課題提出、授業態度を加味し、総括評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本　「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本　「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本　「歯周病学　第2版」（医歯薬出版）

歯科衛生士教本　「歯周病治療の基礎と臨床」（永末書店）

加藤久子（著）　「ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙ・ｽｹｰﾘﾝｸﾞ・ﾃｸﾆｯｸ」　（医歯薬出版）

加藤久子（著）　「ﾄｰﾀﾙｽｹｰﾘﾝｸﾞﾃｸﾆｯｸ」　（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科衛生士として障害者歯科センターで勤務。

主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・歯科診療補助業務・受付業務を担当。

これまでの実務経験をもとに歯科予防処置について講義を行います。

科 目 名	歯科保健指導				授業担当者	稲嶺 直子･志喜屋 やよい	
開講時期	2年　前期				単位･時間数	2単位　60時間	
授業方法	講義	3	演習	16	実験･実習･実技	11	
授業場所	(校内)		校外		教　員	兼任	(専任)

≪学習目標≫

- 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する
- 歯科保健指導の基礎となる対象者の把握と評価に基づいた歯科衛生過程を習得する
- 口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する
- ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、専門的知識、技術および態度を習得する

≪到達目標≫

- 情報収集の目的や得られる情報を説明できる
- 医療面接の目的を説明できる
- 歯科衛生過程概要を活用し臨床予備実習において実践できる
- 各ライフステージの口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる
- 各ライフステージの歯科保健指導を実施できる
- 各ライフステージの食生活指導を実施できる
- 禁煙指導・支援について説明できる

≪授業計画≫

授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
・ 地域歯科保健活動【１コマ】	○				
・ 歯科衛生過程の進め方：１年次の復習【１コマ】	○				
・ 対象別の歯科衛生介入（演習）【２コマ】 ライフステージに対応した歯科衛生介入（青年期）		○			
・ 歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理（実習）【３コマ】				○	
・ 歯科衛生過程の進め方（演習）【１０コマ】 歯科衛生アセスメント～歯科衛生評価		○			
・ 対象別の歯科衛生介入（実習）【８コマ】 ライフステージに対応した歯科衛生介入（青年期）				○	
・ 歯科衛生介入としての歯科保健指導【１コマ】 食生活指導（栄養指導）の進め方、喫煙者に対する指導	○				
・ 研究発表【４コマ】		○			

≪評価方法≫

- 定期試験（２回）により判定する
- 前期試験：５０％、後期試験：５０％
- 前期・後期試験は各々１００点満点とし、６０点に満たない場合は再試験を行う
- 実技評価、発表評価、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う

≪教科書・参考文献≫

- 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第２版（医歯薬出版）
- 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」第２版（医歯薬出版）
- 「歯科衛生士のための　摂食・嚥下リハビリテーション」（医歯薬出版）
- オーラルヘルスケア事典（学建書院）
- 事例でわかる歯科衛生過程（医歯薬出版）
- よくわかる歯科衛生過程（医歯薬出版）
- 口腔保健実践ガイドブック　第２版　（学建書院）
- その他参考資料を適宜紹介

≪実務経験≫

- 歯科衛生士として約１０年臨床の現場を経験、その実務経験を活かし講義を担当する。

科 目 名	歯科保健指導				授業担当者	稲嶺 直子･志喜屋 やよい	
開講時期	２年　後期				単位・時間数	1単位　30時間	
授業方法	講義	12	演習	2	実験・実習・実技	7	
授業場所	(校内)		校外		教　員	兼任	(専任)

≪学習目標≫

・ 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する
・ 生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得する
・ ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、専門的知識、技術および態度を習得する
・ 口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識技術及び態度を習得する
・ 健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術及び態度を習得する

≪到達目標≫

・ 健康教育の対象と場の特徴を概説できる
・ 健康教育活動の方法を説明できる
・ 健康教育に必要な情報を収集できる
・ 健康教育の計画立案ができる
・ 健康教育の内容を説明できる
・ 地域歯科保健活動の工夫と留意点を説明出来る

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	対象別歯科衛生介入【８コマ】	○				
～	配慮を要する者への歯科衛生介入				○	
4	（要介護高齢者）					
5	対象別歯科衛生介入【６コマ】	○				
～	ライフステージに対応した歯科衛生介入		○			
8	青年期～老年期				○	
9	地域歯科保険活動における健康教育【７コマ】	○				
～	ライフステージに対応した歯科衛生介入		○			
12	幼児期				○	

≪評価方法≫

・ 定期試験（２回）により判定する
・ 前期試験：５０％、後期試験：５０％
・ 前期・後期試験は各々１００点満点とし、６０点に満たない場合は再試験を行う
・ 実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う

≪教科書・参考文献≫

・ 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第２版（医歯薬出版）
・ 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」第２版（医歯薬出版）
・ 「歯科衛生士のための　摂食・嚥下リハビリテーション」（医歯薬出版）
・ 「医療連携の役立つ　有病者歯科マニュアル」（医学情報者）
・ その他参考資料を適宜紹介

≪実務経験≫

・ 歯科衛生士として約１０年臨床の現場を経験、その実務経験を活かし講義を担当する。

科 目 名	栄養指導				授業担当者	長嶺　愛香	
開講時期	2年 前期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

人々の生命を維持し、健康な生活を送る上で重要である栄養の基礎知識を学び、歯科診療活動の一環として具体的な栄養指導方法を習得する。

≪到達目標≫

・栄養素の種類と役割や消化吸収について理解し、説明することができる
・日本人の食事摂取基準の意義を理解し、摂取不足・過剰のリスクとその予防について理解する
・食生活とう蝕、歯周疾患との関連性を理解する
・ライフステージ別の栄養指導方法について習得する

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	栄養の基礎知識1（食生活と栄養）	○		
2	栄養の基礎知識2（栄養素の消化吸収）	○		
3	食事摂取基準1	○		
4	食事摂取基準2	○		
5	栄養素の働き1（糖質）	○		
6	栄養素の働き2（タンパク質）	○		
7	栄養素の働き3（脂質）	○		
8	栄養素の働き4（ビタミン）	○		
9	栄養素の働き5（ミネラル 1）	○		
10	栄養素の働き6（ミネラル 2、水分、食物繊維）	○		
11	食生活と食品1（国民の健康と栄養の現状）	○		
12	食生活と食品2（望ましい食生活）	○		
13	食生活と食品3（ライフステージ別の栄養 1）	○		
14	食生活と食品4（ライフステージ別の栄養 2、栄養補給法、食べ物と健康）	○		
15	総括	○		

≪評価方法≫

・定期試験で判定する
・出席状況、授業態度を加味し総括評価を行う

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能2　栄養と代謝」（医歯薬出版株式会社）

≪実務経験≫

管理栄養士として、介護老人保健施設において高齢者の栄養ケアマネジメント業務に従事した。また、大学病院において献立作成、栄養管理、栄養サポートチーム業務、個別・集団栄養食事指導業務に従事した。乳幼児期から高齢期における患者の栄養指導および栄養管理の実務経験より、栄養指導について講義を行う。

科 目 名	歯科診療補助				授業担当者	宮城 花菜子・伊藝 律紀	
開講時期	2年　前期				単位・時間数	2単位　72時間	
授業方法	講義	2	演習		実験・実習・実技	21	
授業場所	(校内)		校外		教　員	(専任)	兼任

≪学習目標≫

円滑な診療を行うために器械器具や歯科材料の取扱方法および

共同動作の歯科治療の流れを理解し、診療の効果を高める知識・技術を習得する。

≪到達目標≫

1. 印象材の特徴、種類、用途を説明できる
2. 印象材の練和と管理を実施できる
3. 印象採得とその対応を実施できる
4. 歯科用石膏の特徴、種類、用途を説明できる
5. 歯科用石膏の練和と管理を実施できる
6. ラバーダム防湿の目的と器具の用途について説明できる
7. ラバーダム防湿を実施できる
8. 歯内療法の特徴を説明できる
9. 歯内療法の手順に沿った器材を準備することができる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	授業方法 演習	授業方法 実験・実習・実技
1	歯科診療における基礎知識　回転切削器具	○		
2～15	歯科診療で扱う歯科材料　印象採得			○
16.17	〃　模型の作製			○
18～20	歯科診療における基礎知識　ラバーダム防湿			○
21.22	歯科臨床と診療補助　歯内療法時の診療補助			○
23	まとめ	○		

≪評価方法≫

定期試験（前期・後期）により判定する

前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う

実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論　第2版」　（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本「歯科器械」（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本「歯科材料」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科衛生士として歯科診療所、病院歯科に勤務。

これまでの実務経験をもとに講義を行います。

科 目 名	歯科診療補助				授業担当者	宮城　花菜子・伊藝 律紀	
開講時期	2年　後期				単位・時間数	2単位　70時間	
授業方法	講義	2	演習		実験・実習・実技	21	
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

円滑な診療を行うために器械器具や歯科材料の取扱方法および

共同動作の歯科治療の流れを理解し、診療の効果を高める知識・技術を習得する。

≪到達目標≫

1. 矯正歯科治療の特徴を説明できる
2. 矯正歯科治療の手順に沿った器材を準備できる
3. 口腔外科治療の特徴を説明できる
4. 口腔外科治療の手順に沿った器材を準備できる
5. 保存修復治療の特徴を説明できる
6. 保存修復治療の手順に沿った器材を準備することができる
7. 周術期における口腔機能管理の概要を述べることができる
8. 周術期の病態とその治療法を説明できる
9. 主な全身疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる
10. 暫間修復について説明できる
11. 暫間修復に使用される種類・材料を説明できる
12. 仮封材や仮着材の特徴、種類、用途を説明できる
13. 仮封材や仮着材の練和と余剰セメントの除去を実施できる
14. 歯周外科治療の特徴を説明できる
15. 歯周外科治療の手順に沿った器材を準備することができる
16. 合着材や接着材の特徴、種類、用途を説明できる
17. 合着材や接着材の練和と余剰セメントの除去を実施できる
18. ワックスの特徴、種類、用途を説明できる

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	歯科臨床と診療補助　矯正治療時の診療補助			○
2	〃　口腔外科治療時の診療補助			○
3～5	歯科臨床と診療補助　保存療時の診療補助			○
6	歯科衛生士が関わる医科疾患患者	○	△	
7～13	歯科診療で扱う歯科材料　暫間修復材			○
14～15	〃　仮封・仮着の補助			○
17, 18	歯科臨床と診療補助　歯周外科治療時の診療補助			○
19～22	歯科診療で扱う歯科材料　合着・接着材、ワックス			○
23	まとめ	○		

≪評価方法≫

定期試験（前期・後期）により判定する

前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う

実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論　第2版」　（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本「歯科器械」（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本「歯科材料」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科衛生士として歯科診療所、病院歯科に勤務。

これまでの実務経験をもとに講義を行います。

科 目 名	臨床検査				授業担当者	宮里　尚美	
開講時期	2年 前期				単位・時間数	1単位 16時間	
授業方法	講義	8	演習		実験・実習・実技	1	
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

患者の全身状態を把握するために必要な臨床検査の種類や検査の意義を理解する
また、その検査データを解析できる知識・技能を習得する

≪到達目標≫

・臨床検査の種類と検査意義を理解する
・生体検査・血液検査・生化学・免疫・血清・細菌・病理検査などの基礎知識を学ぶ
・歯科診療と関連する疾患とその検査値の読み方を習得する

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験 実習 実技
1	臨床検査の概要	○		
2	生体検査（体温・脈拍・血圧など）	○		
3	血液検査	○		
4	血液凝固・線溶検査・（鏡顕実習）	○		○
5	生化学検査（糖代謝）	○		
6	生化学検査（肝機能・腎機能検査）	○		
7	感染症・免疫検査	○		
8	血液型検査・細菌検査・病理検査	○		

≪評価方法≫

・定期検査で総括的評価を行う
・レポート提出・出欠状況・授業態度などを加味する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ「臨床検査」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

臨床検査技師として急性期医療を行う浦添総合病院検査室勤務を経て、現在は翔南病院検査科に在職中。主に生理検査業務を担当し、超音波検査士及び沖縄県地域糖尿病療養指導士取得。この実務経験をもとに、臨床検査について講義・実習を行います。

科 目 名	摂食機能訓練法				授業担当者	眞喜屋睦子・大城清貴・新垣花絵・稲嶺直子	
開講時期	2年 後期				単位・時間数	1単位 20時間	
授業方法	講義	10	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

1．摂食嚥下機能の発達過程を理解すること。

2．摂食嚥下機能療法を理解する。

3．歯科衛生士が実践する摂食嚥下リハビリテーションの訓練法を学ぶ。

≪到達目標≫

1，摂食嚥下機能の発達過程および摂食嚥下機能療法を理解することで、摂食嚥下障害患者への対応ができること。

2，窒息や誤嚥性肺炎などの合併症に対するリスク管理について理解できる。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	摂食嚥下機能の発達過程について	○		△
2	摂食嚥下機能療法について、摂食嚥下障害患者への対応について	○		△
3	摂食嚥下機能のメカニズム	○		
4	発達期の摂食嚥下障害について	○		
5	栄養管理とリスクマネジメント	○		
6	病態別摂食嚥下障害	○		
7	口腔衛生管理について	○		
8	摂食嚥下障害の評価と訓練法	○		
9	摂食嚥下機能の発達過程について	○		△
10	摂食嚥下機能療法について、摂食嚥下障害患者への対応について	○		△

≪評価方法≫

定期試験で、総括的評価を行う

授業態度などを総括的評価に加味する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第２版　医歯薬出版

摂食嚥下リハビリテーション

≪実務経験≫

・沖縄県口腔保健医療センターでの摂食指導を担当

・障害者歯科学会認定医、摂食嚥下リハビリテーション学会認定士として、障害者（児）の診療を担当

・日本看護協会「摂食・嚥下障害看護認定看護師」として活動

・歯科衛生士として摂食嚥下リハビリテーションに関わる

科 目 名	臨地・臨床実習				実習担当者	指導教員	
開講時期	2年　後期				単位・時間数	6単位　270時間	
授業方法	講義		演習		実験・実習・実技	135	
実習場所	校内		(校外)		教　員	(兼任)	(専任)

≪学習目標≫

歯科衛生士業務を習得するために歯科診療の場及び地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。

≪到達目標≫

＊ 臨床実習

・歯科医師からの指示内容を踏まえた対応ができる
・スタッフ（多職種）との協働、連携した対象者へのサービスができる
・診療室のルールを理解した行動ができる
・医療安全管理に配慮した行動ができる
・感染予防（消毒・滅菌、手指消毒等）対策に応じた行動ができる
・器材、機器および薬品の管理方法を理解した行動ができる
・患者のデータ資料の管理方法を理解した行動ができる

＊ 臨地実習

・対象者からの要求を理解した対応ができる
・対象に応じて配慮した対応ができる
・対象のプライバシーを配慮した態度で応接できる
・安全管理に配慮した行動ができる
・感染予防（消毒・滅菌、手指消毒等）対策に応じた行動ができる
・集団を対象に歯科衛生教育活動が実践できる

実習スケジュール		実習方法		
	内　容	講義	演習	実験・実習・実技
1	歯科診療所実習			○
2	病院実習（口腔外科）			○
3	口腔保健医療センター			○
4	障害者施設			○
5	高齢者施設			○
6	幼稚園			○

≪評価方法≫

臨床実習評価表、出席状況、課題提出により評価する

≪教科書・参考文献≫

「歯科衛生士のための最新歯科用語辞典　ポケット版」（クインテッセンス出版）
歯科衛生士教育サブテキスト「臨床実習HAND　BOOK」（クインテッセンス出版）

科 目 名	介護技術法				授業担当者	國吉　恒子	
開講時期	2年　後期				単位・時間数	2単位　30時間	
授業方法	講義		演習		実験・実習・実技	16	
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

介護の基本的な技術を修得し老化や障害によって、日常生活に支障のある人に対して

生活の自立と満足した生活に向けて援助することができる

歯科診療等に当たって、安心・安全・自立支援・個人の尊厳を念頭に援助ができる

≪到達目標≫

・我が国の高齢社会の特徴を学び、介護の機能と役割を学ぶ

・高齢者の歯科診療時のコミュニケーション法や対応方法を学ぶ

・介護の基本技術を学び、寝たきり高齢者への対応、その他、救急方法を学ぶ

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	日本の高齢社会の現状を学び、歯科診療に生かす	△		○
	なぜ、介護・介助のスキルが必要かを学ぶ			
2	高齢者や要介護者との効果的なコミュニケーション方法を学ぶ	△		○
	他職種との連携、コミュニケーション法を学ぶ			
3	歯科診療所や施設での要介護者への対応方法を学ぶ	△		○
	車椅子の操作方法を学ぶ			
4	麻痺患者の衣服の着脱を学ぶ	△		○
	患者さんに安心・安全で快適な診療姿勢やボディメカニクスを学ぶ			
5	寝たきり高齢者への対応、介護技術を学ぶ	△		○
	一般状態の観察ができる			
6	体位変換法を学ぶ	△		○
	要介護者の移動方法を学ぶ			
7	緊急時の対応方法を学ぶ	△		○
	地域の医療機関との連携や地域の社会資源を学ぶ			
8	総合的な学習・復習・テスト対策	△		○

≪評価方法≫

レポート提出、出席状況、授業態度、定期試験で総合的に評価する。

≪教科書・参考文献≫

「介護・介助の基本スキル」(医歯薬出版株式会社)

≪実務経験≫

沖縄リハビリテーション福祉学院(14年)、那覇看護専門学校(7年)、沖縄赤十字病院(5年)

ハートライフ病院(3年)、那覇市社会福祉協議会デイサービス(10年)等で勤務。

この実務経験をもとに講義いたします。

科 目 名	隣接医学・救急蘇生法				授業担当者	上田 剛生	
開講時期	2年 前期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教 員	兼任	専任

≪学習目標≫

人体の構造と機能及び疾病の基本的理解と医療連携

歯科的緊急事態の対応、救急蘇生法の理解と習得

≪到達目標≫

生活習慣病、身体疾患、精神疾患を理解し、基本的な対応を習得する

歯科的緊急事態への対応を習得する

救急蘇生法を理解する

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	人の成長･発達と老化　身体構造と心身の機能	○		
2	疾病の概要と患者の管理1 代謝疾患と内分泌疾患	○		
3	疾病の概要と患者の管理2 消化器疾患	○		
4	疾病の概要と患者の管理3 循環器疾患	○		
5	疾病の概要と患者の管理4 血液疾患	○		
6	疾病の概要と患者の管理5 腎・泌尿器疾患	○		
7	疾病の概要と患者の管理6 免疫疾患・膠原病	○		
8	疾病の概要と患者の管理7 感染症	○		
9	疾病の概要と患者の管理8 神経疾患・性心疾患	○		
10	疾病の概要と患者の管理9 がん	○		
11	疾病の概要と患者の管理10 妊婦，産科，婦人科疾患	○		
12	有病者の口腔ケアと医療連携	○		
13	救急蘇生法I	○		
14	救急蘇生法II	○		
15	まとめ	○		

≪評価方法≫

レポート提出、出席状況や授業態度、定期試験で総括的に評価を行う

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック　(医歯薬出版)

BLSプロバイダーマニュアル（シナジー）

ポイントチェック歯科衛士:国家試験対策5（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科医師として沖縄県立中部病院、歯科口腔外科に勤務。

主に口腔外科の治療を担当。

総合病院での実務経験をもとに隣接医学・救急蘇生について講義を行います。